会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和3年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」（３）職業実践専門課程等の充実に向けた取組の推進①社会的評価の一層の向上のための共通的基盤整備の推進 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第4回共通基盤整備事業実施委員会 |
| 開催日時 | 令和3年12月13日（月）　13時00分～15時00分 |
| 場所 | 専門学校岡山情報ビジネス学院 |
| 出席者 | 事業責任者：高岡　信吾 委　　　員：五十部　昌克、岡村　慎一、松田　義弘、谷　昌一、山根　大助、増子　卓矢　　　　　　　　　　　　計7名請負業者：八木　信幸、飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　計2名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計9名 |
| 議題等 | 1. 自己点検・評価標準モデル（仮称）検証および完成版開発（五十部）

・検証が終了し、11/15運営委員会へ報告、前年モデルの修正点等意見を集約・検討。現在報告書の作成に入るところ。・課題：報告書のコンテンツ構成とページ数の検討がある。1冊にまとめるか2冊にするか。構成案についてご意見をいただきたい。※資料を元に構成案を説明。【意見等】・使い勝手を考慮し冊数を検討したほうが良い。（飯塚）・今までの報告書と大きなずれが無ければ良い。（谷）→昨年度の構成を踏まえた構成案となっている。使い勝手を考慮しご意見をいただきたい。（五十部）→自己点検評価モデルの検証を行った結果としての報告書の構成となっている。今回は情報として手引きが追加される。手引きは項目に対しての評価様式になっており、評価しやすいように事例なども追加している。自己点検・評価モデルと手引きを分冊にするか検討いただきたい。（八木）→使い勝手を考慮すると分冊が良い。（増子）・手引きはご指摘された部分を修正するのか。（高岡）→修正した部分、修正しない理由を追記した部分がある。ご意見には全て応えている。自己点検・評価モデルの内容の差分については説明を加える。（八木）→調査報告書を第1部、自己点検・評価モデルを第2部、手引きを第3部として、調査報告書に結果を踏まえた差分の説明を入れると流れが良いと考える。他、第三者評価スタンダードモデルがある。（飯塚）→第三者評価についても手引きがつくのか。（山根）→第三者評価に関しては、今年度はプロトタイプとして作成し、次年度検証していくイメージ。（飯塚）・利用の手引きは項目に対するエビデンス例などが記載されるのか。また第三者評価は調査の結果を元に機関の違いなどを明示するのか。（岡村）→手引きは項目についての評価基準、エビデンス例などの内容となる。第三者評価は調査結果の他、専門学校の第三者評価に必要な項目を洗い出し、第三者評価の手順、評価基準を明らかにしていけると良いと考えている。（八木）・自己点検・評価モデルと手引きは分冊とする。（五十部）1. 第三者評価機関調査について（五十部）

・第三者評価機関調査では5機関計画し、私立専門学校等評価研究機構、QAPHE、JAMOTECの3機関について調査が終了した。TCE財団は12/15に予定しており五十部が訪問する。一人訪問できる人がいると良い。→高岡先生が参加。・リハビリテーション教育評価機構については受入調整中だが難航している。→調査が終了・予定されている4機関が主流となる。リハビリテーション教育評価機構は分野別の位置付けとなっているので、調査ができれば別添の形で追記する。（八木）→リハビリテーション教育評価機構については、年内に日程調整ができない場合は中止とする。（五十部）(1) 第三者評価機関調査報告書のまとめ方について・課題として2つあり、一つは学内監査・推進者育成プログラムのヒアリング調査も第三者評価ヒアリング調査の取りまとめに含めるか、二つめに各評価機関で共通している項目をスタンダード認証モデルとし、共通項目以外を各機関の特徴、オプションとして利用手引きに活用方法を記述するか。イメージはこれで良いか。【意見等】・自己点検評価項目で各評価機関の特徴は記載されるので、ここではシステムの違いなどが対象になるのか。（岡村）→自己点検評価項目で記載されている項目も含める予定。（八木）→自己点検評価基準と第三者評価基準の差があり見る視点で違いが出てくるということで良いか。（岡村）→調査で明らかにしようとしているが、なかなか分かりやすく出てくるわけではないので、各認証機関のヒアリング結果のまとめ、また、違いが見えるように仕様をまとめようと考えている。仕様についてはまとめた後、各認証機関に確認をしていただく予定。（八木）→評価基準も大切だが、申込みから評価までの流れや、各機関の得意分野などがあると次に繋がり、また整理もしやすいのではないか。（岡村）→仕様についての取りまとめについては、審査の流れ、料金体系、評価基準などの項目を予定しており、どの評価機関に依頼するか検討する際の目安になり、岡村先生のおっしゃる部分はまかなえるかと考える。（八木）→調査報告書の話かスタンダード認証モデルの話か。報告書とスタンダード認証モデルでは目的や方向性が変わってくる。（飯塚）→当初文科省では専門分野の評価を増やそうとしていたが、中小規模の学校や地方の学校ではなかなかできないので、私としては基本として各認証機関別の整理し利用しやすくすることを目標と考えた。（岡村）→調査結果を深堀し、専修学校で行われている第三者評価の現状、効果、更なる活用などでまとめてみてはどうか。スタンダード認証モデルについては文科省と方向性を調整したほうがいいのではないか。（飯塚）→今年度のゴールとしてどこまで作成していくか、スタンダード認証モデル作成は難しいので、今年度は作成のために必要な基本的な共通項、サブ項目の整理として調査結果をまとめるということでよいのではないか。まずは第三者評価の普及促進を目指していきたい。12月17日に文科省に確認しフィードバックする。（岡村）→今年度のアウトプットは、スタンダード認証モデル作成のための各認証機関の調査結果のまとめとする。スタンダード認証モデルについては文科省の今後の方針を踏まえ検討する。（五十部）(2)アクションリサーチについて（五十部）・各認証機関のヒアリング結果からまとめた各認証機関の仕様について、確認・ご意見をいただくこととする。(3) 第三者評価調査報告書のまとめ方について（五十部）・第三者評価調査報告書構成案、第三者評価を実施している機関へのヒアリング調査結果資料をもとに説明。【意見等】・各認証機関で性質の違いもあるが、AND項目は抽出できるか。（飯塚）→それぞれ性質の違うところもあるが、ISOがベースになっているので共通している部分もある。（八木）→認証機関の性質の違いは評価ターゲットの違いに繋がる部分があるのではないかと感じている。教学マネジメントという名称は最近では職業教育のマネジメントと表現が変わってきている。そのような変化をどう踏まえて第三者評価を組み込められるか、議論が必要だと感じている。（岡村）・各認証機関を並べて表示するのはリスクがあるのではないか。（高岡）→そのためにも各認証機関の仕様を作成した後、それぞれ確認をしていただく。細心の注意を払って作成したい。（八木）(4) 今年度事業及び将来の本事業の着地点についての共通認識（五十部）・12月17日のフィードバックを待って検討する。1. 次年度予定の目標（五十部）

・スタンダード認証モデルを作成するかどうかは今後の検討となるが、①第三者評価スタンダード認証モデルの検証及び完成版の開発、②第三者評価スタンダード認証モデルを運用するための組織運営ガイドライン検証及び最終開発、③学内監査・推進者育成プログラムの検証及び開発となっている。・学内監査・推進者育成プログラムについては、実際に講座を開くことになる。【意見等】・講座は既存のものを基本としアレンジして開発する予定。学内監査推進者＝自己点検評価を学内で推進する者となるが、3つの認証機関ではある程度のイメージがあり研修を実施していると伺った。審査員の養成に関しては、可能であればどの認証機関でも対応できる審査員の養成プログラムを開発したいという考えの元、厚生労働省の委託事業で職業訓練のガイドラインの適合認定をしたTCE財団も今回の調査の対象としたが、私立専門学校等評価研究機構、QAPHEとの共通項目が少なく、4認証機関それぞれに対応できるような養成は難しいことが分かった。今後検討していきたい。（八木）→第三者評価を全国的に勧めるには、審査員も全国的に対応できるようにすることが課題だが、実情を考えると難しいので、できるところからやっていけば良いと考える。（岡村）1. スケジュール

・第5回実施委員会…1月17日（月）13時～15時＠東京 |
| 配布資料 | ・第４回共通基盤整備\_実施委員会議題案\_20211213・第三者評価を実施している機関へのヒアリング調査結果\_20211213 |

以上